

# 全国から注目されている上越市の地域自治体

新潟大学大学院実務法学科 石崎教授が講演

14市町村が合併してから8ヶ月。合併によって、上越市は東京都の面積の半分にもなる広大な市となりました。市民本位の市政をどう確立していくかを考えるうえで重要なポイントの一つが地域自治体です。



講演する石崎誠也新大教授

新潟大学大学院の石崎教授（いしがた自治体研究所副理事長）は23日、頸城区の希望館において「地域自治組織の仕組みと可能性」と題してこの点を深める講演を行いました。このなかで同教授は、旧三和村での産廃処理や山間部の豪雪を例にあげ、広大な市全

体の問題になりにくくて、『地域でなければ解決しない』問題が起こりうる」と指摘しました。そのうえで同教授は、「昨年、法改正されたが、地域自治体は執行機関の中に位置づけられている。法では、市町村長の権限に属する事務を分掌し、地域住民の意見を反映させつつ、これを処理するとなっている。住民自治を充実させる重要な手がかりとなる規定だ」「上越市の地域自治体は、地域協議会委員を公募・選挙投票制で選任する全国初の取り組みをしたことなどによって注目されている。地域協議会は自治体の機関として、地域の意思決定機関となる可能性を持っている」と述べました。

この日、講演を聴いた人たちは約50人。「地域自治体の役割の重要性を改めて確認できた」「選任投票をすることによって、地域協議会委員は地域住民を代表する資格を持つ」「地域自治体の可能性についての研究はこれから。さらに深めてほしい」などといった声が出ていました。党議員団でも大いに研究し、議論していきたいと思えます。

## 31日から9月議会がはじまります

9月定例議会が31日から来月29日まで開かれます。今議会に提案される案件は200件にもなります。このうち昨年度の決算認定に関する案件が119件、指定管理者制度に関連するものが38件あります。

党議員団からは、総括質疑に杉本議員が、一般質問には杉本、樋口、橋爪の3議員が立ちます。各議員の所属委員会は、杉本議員が総務、樋口議員が厚生、橋爪議員は文教経済です。



旧13町村の昨年度の決算認定もあるので、審議資料は積み上げると高さは43センチにも……。

## 上越市議会9月定例会の日程

月 日	会議名	会議室名	備考
8月31日	本会議	議場	全案件上程、質疑
9月1日	本会議	議場	質疑、委員会付託
2日	建設企業委員会	第1委員会室	付託案件の審査
5日	建設企業委員会	第1委員会室	付託案件の審査
6日	建設企業委員会	第1委員会室	付託案件の審査
7日	文教経済委員会	第1委員会室	付託案件の審査
8日	文教経済委員会	第1委員会室	付託案件の審査
9日	文教経済委員会	第1委員会室	付託案件の審査
12日	厚生委員会	第1委員会室	付託案件の審査
13日	厚生委員会	第1委員会室	付託案件の審査
14日	厚生委員会	第1委員会室	付託案件の審査
15日	総務委員会	第1委員会室	付託案件の審査
16日	総務委員会	第1委員会室	付託案件の審査
20日	総務委員会	第1委員会室	付託案件の審査
21日	本会議	議場	一般質問
22日	本会議	議場	一般質問
26日	本会議	議場	一般質問
27日	本会議	議場	一般質問
29日	本会議	議場	付託案件の採決

会議開始時間はいずれも午前十時からです。

## 日本共産党上越市議団ニュース

2005年8月28日

連絡先 杉本敏宏 524-3787 (東本町5)  
 樋口良子 544-6802 (中門前3)  
 橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)  
 事務局長 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)

私たちの議員団活動

# 市政の変化のなかで、 住民の期待にこたえる団活動へ

(下)

党新潟・上越市議団長 杉本敏宏

## 誰もが納得できる提案を重視して

住民要求を実現していくには、それを提案していかなければなりません。そのために、一般質問と委員会審議を重視しています。

上越市では小中学校や公共施設の耐震診断と改修・改築が進められています。これは2002年12月議会で、「学校は避難所となる施設、また子どもたちが生活の多くを過ごす施設なので、もっとも安全でなければならない」と耐震化を提起したのが始まりでした。

法改正で「指定管理者制度」の導入が進められています。この問題での私たちの提起は、「民間委託になじまない施設があること。現在直営の施設からではなく、管理委託している施設から検討すること」でした。6月議会でもたくさんの方の施設の「指定管理者」への移行議案が出されましたが、すべて地縁団体などに管理委託されている施設です。9月議会でも引き続き移行議案が提案されます。

このように「誰もが納得できる提案の仕方」に心がけてきましたが、それは3月議会でも発揮されました。例えば、厚生連の病院新築に20億円という破格の補助金を支出する議案に対し、「他の民間病院と比べてたいへん不公平だ」という観点で追及しました。

3月議会終了後職員や他会派の議員から、「1人増えただけでなく、10倍の働きだったね」と声をかけられました。

## あらたに「議員団ニュース」 「市議会報告」を定期発行

「町政レポート」や「くびき民報」を欠かさず発行し、議会内外の様々な問題を全住民にお知らせしてきたことが、増員選挙で大きな力を発揮しました。合併後、これをどう引き継ぎ発展させていくかは、大きな課題でした。

増員選挙後すぐに3月議会が始まりましたので、何はともあれ「議会の様子を速報的にお知らせするものが必要」ということになりました。そこで発行し始めたのが「日本共産党上越市議団ニュース」です。『しんぶん赤旗』『日曜版折り込みですが、議会開会中は毎週発行し、閉会中は隔

週発行です。この編集は橋爪議員の力に頼っていますが、「議会の全体的な動きが良くわかる」と好評です。

これまで各議員が発行してきた「市政レポート」「市政レポート（吉川版）」「町政レポート」を改題し「くびき民報」「よし子ニュース」などは、引き続き各議員の責任で発行していくことにしました。吉川区や頸城区では、これが選挙公約の一つでもありました。いずれも発言の詳細や人となり書かれていて、これもまた好評です。

あらたな議員団の体制になって発行を検討したのが「市議会報告」です。年4回の定例議会終了後に、議員団の活動を全市民にお知らせするために発行します。事務局長の上野公悦前頸城村議を中心にして議員団全体で編集していきます。初めてのことで、3月議会報告を発行する頃にはもう6月議会の準備が始まるという状況ですが、今後は間髪いれず発行したいと考えています。ちなみに6月議会報告は、今までより早く発行することができました。

## 3年後の市議選に、自力で 勝利できる力を

今回の合併は編入合併でしたから、旧上越市議会の任期である2008年4月に次回選挙が行われます。その選挙は、今回増員選挙と同じく各区ごとの選挙区（旧上越市区は定数30、他は1〜3）で、市議選がたたかわれます。これまでの選挙は相互に支援しあつて議席を得てきました。今度は一つの市での同時選挙ですから、相互支援はできなくなり、各選挙区で自力で勝利していかなければなりません。これは新たな挑戦です。また2012年の市議選は、全市一区で定数38以下となることが決まっていますから、さらにたいへんです。

3中総で提起された「大運動」は、こうした力をつけていく上でも大切です。支部とともに力をつくしていきたいと考えています。



クルマユリ(1日燕岳にて)